



中学校から高等学校へ 学びがつながる・深まる

内容解説資料

本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

光村の高等学校『美術1』は、中学校からの接続に配慮して編集されています。

「鉛筆デッサン」「浮世絵の鑑賞」を取り扱ったページを例に、構成の工夫をご紹介します。

令和7年度版中学校教科書『美術』（光村図書）▶



鉛筆デッサン 描き方をより詳しく解説

中学校での学びをもとに、より表現の幅を広げる、全8ページの「鉛筆BOOK」を用意しました。

中学校

POINT 1

鉛筆で描く

●形を捉える
ものの形や立体感、風景の奥行きを表すにはどうしたらよいだろう。形や光の捉え方、透視法を知って、表現に生かそう。

●光を捉える
光が当たってくる方向を考えながら、明暗を意識して描く。立体物に表すことができる。

●鉛筆デッサン
光の当たっている場所や暗い場所、見えない部分のことを考えながら、鉛筆で描いてみよう。

**高等学校『美術1』
P.83「鉛筆BOOK」**

POINT 1

●形を捉える
デッサンは形を捉えることが大事だ。まずは基本的な形の描き方を押さえよう。

●光を意識する
デッサンは、光が当たったときの「陰」と「影」を手がかりに立体感を描いていくとよい。

POINT 2

●質感を表す
透明なガラス、布でできたタオル、硬い金属。光の反射を意識し、適切なタッチを生かして、光と陰のコントラストを強くする。

POINT 1 形の捉え方

中学校では、美術に苦手意識のある生徒のために、簡潔に解説しました。

高等学校では、円柱の描き方や、パースについて詳しく解説しました。

POINT 2 質感の表し方

中学校では、リンゴを例にデッサンの手順を簡潔に示しました。

高等学校では、ガラス、タオル、硬い金属を例に、物の質感を表すポイントを解説しました。

「鉛筆BOOK」目次

- P.81 芯の種類、削り方、持ち方
- P.82 グラデーションをつくろう／練りゴムの使い方／ばかし方の基本
- P.83 形を捉える／光を意識する／質感を表す
- P.84～85 静物を描く
- P.86～87 石膏像を描く
- P.88 手を描く

鉛筆の削り方から
石膏デッサンまで
幅広く学べるね！



浮世絵の鑑賞

美術史上の位置づけを知り、鑑賞を深める

中学校での学びを踏まえて、江戸時代の絵師・歌川広重の浮世絵をより深く鑑賞できるよう配慮しました。

中学校

POINT 1

構図

日本の絵画には、遠近法を用いた「二点透視図法」が用いられる。

令和7年度版中学校教科書『美術2・3』
P.38「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」

高等学校

POINT 2

浮世絵の鑑賞が広がる

中学校で学んだ「構図」に加え、雨の描き方や遠近感の表現など、新たな視点から浮世絵の鑑賞を広げられる作品を掲載しました。

POINT 3

「美術史ワード」で理解が深まる

関連する美術史用語をわかりやすく解説。年表とのリンクも示しているので、美術史と関連づけて学べます。また、QRコードから詳しい解説動画も視聴できます。

美術史まで
よくわかるね！



高等学校『美術1』

P.34「北斎・広重から広がる世界」



光村図書

内容解説資料

発行者：吉田直樹 発行所：光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎 2-19-9
電話：03-3493-2111(代表) 光村図書ウェブサイト：www.mitsumura-tosei.co.jp ※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。